

<天地始肅>猛暑と大雨から俄かに涼しくなりました。まさに“天地はじめてさむし”(暑さから解き放たれる)の侯(8月28日~9月1日)です。道端ではツリガネニンジンが咲きだしました。釣鐘状の清楚な花は色と形で目を惹きます。実は8月半ばからもっと目立っている花があります。タカサゴユリの大きな白い花で、野辺、花壇、並木の下、芝地、ところかまわず咲いています。旺盛な繁殖力を持った外来種でテッポウユリと交雑したものも多いようです。



<ツリガネニンジン>

<米粒大>水気のあるところではミゾソバの白とピンクの混じった米粒ほどの大きさの花が咲いています。これとそっくりな花を付けているのが“ママコノシリヌグイ”です。花はとても可愛らしいのですが葉にも茎にもたくさんの棘が付いているためこんな酷い名前を頂戴することになったようです。もう一つ、有り難くない名を付けられた“ヌスビトハギ”が米粒にも満たない小さな花を付けています。



<タカサゴユリ>

花のあとのマメの莢(さや)が昔の盗人の足跡に似ているから、とのこと。足音をたてない独特の歩き方があったのでしょうね。さらにもう一つ、米粒にも満たない花が道端



<ママコノシリヌグイ>



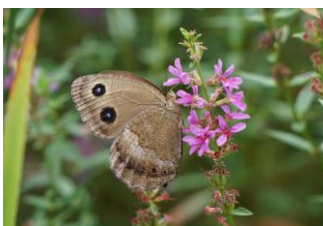
<ヌスビトハギ>

に咲いています。ほとんど気にも掛けられない花ですが“キツネノマゴ”という何とも可愛い名前を付けられています。穂状の花序を小さなキツネの尻尾に見立てたのでしょうか。もっと小型の“キツネノヒマゴ”という野草もあります。

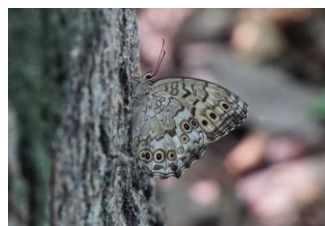


<キツネノマゴ>

<蛇の目>SHCにはジャノメチョウとその仲間のキマダラヒカゲや小ぶりのクロヒカゲなどが見られます。アゲハチョウの仲間ほど華やかではないのですがそれぞれに凝った模様、立派な“蛇の目”を付けています。ところで話は脱線しますが、二重丸の中を塗りつぶした図形を“蛇の目”というのです。蛇の目傘、蛇の目猪口(酒の利き猪口)、航空機の国籍を示す丸い輪などいろいろあります。生き物でもチョウのほか草花、動物などに“ジャ



<ジャノメチョウ>



<キマダラヒカゲ>



<クロヒカゲ>

ノメ---”があります。英語では“fisheye”(魚の目)で、日本と捉え方が違いますね。

(文と写真: 松本正勝)